

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p style="text-align: right;">2023年 5月 31日</p>	
<p>(あて先) さいたま市長</p> <p style="text-align: right;">提出者 住 所 埼玉県さいたま市岩槻区大字鹿室1190 氏 名 曙ブレーキ岩槻製造株式会社 代表取締役社長 遠井 好則 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号048-794-4111</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	曙ブレーキ岩槻製造株式会社
事業場の所在地	埼玉県さいたま市岩槻区大字鹿室1190
計画期間	2023年4月1日から2024年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	輸送用機械器具製造業
②事業の規模	資本金 2000万円
③従業員数	622人 (2023年4月1日現在)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none"><li>・汚泥→焼却(委託)→再生</li><li>・汚泥→中和(委託)→路盤材再生</li><li>・廃酸→中和(委託)→再生</li><li>・木屑→破碎(委託)→再利用</li><li>・廃プラ→破碎(委託)→再生</li><li>・コンガラ→破碎(委託)→再生</li><li>・廃油→油水分離(委託)→再生</li></ul>

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図)		
別紙		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（2022年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙1に記載
	排 出 量	別紙1に記載
	(これまでに実施した取組) ・ 切削液の再利用（産廃削減、切削液購入費用抑制） ・ ウェス再利用化（洗濯ウェス）	
② 計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙2に記載
	排 出 量	別紙2に記載
	(今後実施する予定の取組) ・ ピストンスラッジ有価物化⇒圧縮して売価増を図る。 ・ 木パレット有価物化	
産業廃棄物の分別に関する事項		
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ PPバンド、ストレッチフィルム有価物化 ・ ウェス再利用化	
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ PPバンド、ストレッチフィルム全職場へのアナウンス ・ ウェス回収⇒洗濯（業者依頼）⇒購入⇒再利用実施	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
① 現状	【前年度（ 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組)	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
① 現状	【前年度（2022年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙1による
	全処理委託量	別紙1による
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙1による
	再生利用業者への処理委託量	別紙1による
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙1による
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙1による
	(これまでに実施した取組)	
・ 廃酸処理業者変更での処理費削減（廃切削液）		

②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類	別紙2による	
	全処理委託量	別紙2による	
	優良認定処理業者への 処理委託量	別紙2による	
	再生利用業者への 処理委託量	別紙2による	
	認定熱回収業者への 処理委託量	別紙2による	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	別紙2による	
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピストンスラッジ汚泥処理（産廃）→鉄屑での有価物化</li> <li>・処理業者見直しでの廃酸処理費用削減</li> <li>・廃プラ削減（PPバンド、ストレッチフィルム有価物化）</li> </ul>		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1 産業廃棄物の処理委託に関する事項 昨年度(2022年度)実績値

項目[t/年]	①排出量	⑩全処理委託量	⑪全処理委託量のうち優良認定処理業者への処理委託量	⑫再生利用業者への処理委託量	⑬認定熱回収業者への処理委託量	⑭認定熱回収業者以外の熱回収を行う処理業者への処理委託量	中間処理方法	最終処理方法
0200汚泥	324	324	324	159	165		還元焼焼、天日乾燥・固化、焼却、脱水・乾燥、混合・混練	製鉄原料、亜鉛精錬原料、KSJソイル、再生砂、裏込剤にて販売、固形化・破碎・溶解、安定型、焼成、固化、分級混練
0300廃油	428	428	428	428	0	0	油水分離、焼却	燃料化・焼却焼成・安定型
0400廃酸	884	884	884	884	0	0	中和・凝集沈殿・蒸発濃縮	下水放流、ニッケル汚泥として売却、固化
0500廃アルカリ	0	0	0	0	0	0	中和・油水分離	固化・焼成
0600廃プラスチック	29	29	29	12.3	16.7	0	破碎・減容	再資源化、焼却
0800木くず	12.3	12.3	12.3	12.3	0	0	破碎	再資源化・焼却
1300ガラスコンクリート陶磁器くず	0.2	0.2	0.2	0.2	0	0	破碎	安定型、路盤材、再生砂
1500がれき類(非飛散性石綿含有)	0	0	0	0	0	0	なし	安定型
1200金属くず(乾電池)	0.13	0.13	0.13	0.13	0	0	破碎	再資源化、管理型
1200金属屑、1300ガラスコンクリート陶磁器屑(蛍光灯)	0.14	0.14	0.14	0.14	0	0	水銀加熱回収	売却・焼却・熔融

※2022年度排出実績

別紙2 産業廃棄物の処理依頼に関する事項 本年度(2023年度)計画値

項目[t/年]	①排出量	⑩全処理委託量	⑪全処理委託量のうち優良認定処理業者への処理委託量	⑫再生利用業者への処理委託量	⑬認定熱回収業者への処理委託量	⑭認定熱回収業者以外の熱回収を行う処理業者への処理委託量	中間処理方法	最終処理方法
0200汚泥	314	314	314	154	160		還元煤焼、天日乾燥・固化、焼却、脱水・乾燥、混合・混練	製鉄原料、亜鉛精錬原料、KSJソイル、再生砂、裏込剤にて販売、固形化・破碎・溶解、安定型、焼成、固化、分級混練
0300廃油	415	415	415	415	0	0	油水分離、焼却	燃料化・焼却焼成・安定型
0400廃酸	857	857	857	857	0	0	中和・凝集沈殿・蒸発濃縮	下水放流、ニッケル汚泥として売却、固化
0500廃アルカリ	0	0	0	0	0	0	中和・油水分離	固化・焼成
0600廃プラスチック	28	28	28	12	16	0	破碎・減容	再資源化、焼却
0800木くず	11.6	11.6	11.6	11.6	0	0	破碎	再資源化・焼却
1300ガラスコンクリート陶磁器くず	0.19	0.19	0.19	0.19	0	0	破碎	安定型、路盤材、再生砂
1500がれき類(非飛散性石綿含有)	0	0	0	0	0	0	なし	安定型
1200金属屑(乾電池)	0.019	0.019	0	0.019	0	0	破碎	再資源化、管理型
1200金属屑、1300ガラスコンクリート陶磁器屑(蛍光灯)	0.13	0.13	0	0.13	0	0	水銀加熱回収	売却・焼却・熔融

2022年度実績-3%を目標設定